
日本僑報電子週刊 第 1268 号 2017 年 3 月 8 日 (水) 発行

<http://jp.duan.jp> 編集発行：段躍中 (info@duan.jp)

★「若者が考える『日中の未来』」シリーズ第 3 弾 刊行特集★

■ 编者より

○ 本日 3 月 8 日は「三八婦女節」(国際女性デー)ですが、日本僑報社にとっても女性の皆さんの活躍の広がりを実感しています。

例えば——弊社創設の日中翻訳学院は受講生・修了生の 8 割が女性であり、これまでに受講生・修了生が翻訳した弊社刊の書籍 28 冊のうち、23 冊が女性の翻訳者によるものでした。

彼女たちのたゆまぬ努力と貢献に、ここで改めて敬意を表します。また、こうした翻訳をはじめとする日中文化交流の“推進力”として「女性パワーは大きい」とつくづく感じています。

今号のメルマガは、学生懸賞論文「宮本賞」の受賞作品集「若者が考える『日中の未来』」シリーズ第 3 弾を特集しましたが、このシリーズでも、女性の活躍が目立ちました。第 1 弾、第 3 弾ともに最優秀賞を受賞したのは女子学生たちでした(第 2 弾の同賞受賞は男女混合チーム)。これも 3 月 8 日を記念するにふさわしい素晴らしい記録だといえるでしょう。

また、オンライン通販・アマゾンジャパンの売れ筋ランキング「医学辞事典」分野で、毎週のようにベスト 10 入りを果たしているロングセラーの実用書『病院で困らないための日中英対訳 医学実用辞典』(弊社刊)も、女性の松本洋子さんが編著を手がけられました。

※『病院で困らないための日中英対訳 医学実用辞典』

<http://duan.jp/item/153.html>

さらに、弊社創設の「華人学術賞」を受賞し、その優秀な博士論文を書籍化した「華人学術賞」シリーズもこれまでに 17 点ほど刊行しましたが、うち 7 割以上は女性の博士・研究者によるものでした。

<http://duan.jp/item/c11.html>

3 月 8 日にあたり、改めて振り返ると、弊社関係においても女性たちの活躍がめざましいことがうかがえました。そこでこの場を借りて、皆様に改めて良質な書籍をご紹介します。

これからも女性たちの一層の活躍に期待しています。

皆様には引き続き、彼女たちの奮闘努力を見守り、ご支援くださいますよう、よろしく
お願いいたします！

2017年3月8日

段躍中

目次

- 1) 好評シリーズ第3弾『日中外交関係の改善における環境協力の役割』が刊行！
<http://duan.jp/item/236.html>
- 2) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 監修者、編者紹介
<http://duan.jp/item/236.html>
- 3) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 目次（受賞者一覧）
<http://duan.jp/item/236.html>
- 4) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 まえがき
<http://duan.jp/item/236.html>
- 5) 「若者が考える『日中の未来』」シリーズ・関連本紹介
<http://duan.jp/item/miyamoto.html>
- 6) 月刊誌「コロンブス」に書評が掲載—『夫婦の「手作り・日中交流」28年』
<http://duan.jp/item/214.html>
- 7) 【おくやみ】アジア文化総合研究所所長の鍾清漢先生
<http://duan.exblog.jp/23918904/>
- 8) 中文和訳の通信講座「武吉塾」第18期を4月より開講へ、受講生募集！
<http://fanyi.duan.jp/takeyosijuku.htm>

-
- 1) 好評シリーズ第3弾『日中外交関係の改善における環境協力の役割』が刊行！
<http://duan.jp/item/236.html>

【日本僑報社発】日本僑報社はこのほど、宮本雄二・元中国大使が監修し、日本日中関係学会（宮本雄二会長）が編集した好評シリーズ「若者が考える『日中の未来』」の第3弾『日中外交関係の改善における環境協力の役割』（学生懸賞論文集）を刊行した。

日本日中関係学会は、若い学生たちが日中関係の懸け橋となることを期待して、2012年度から学生懸賞論文の「宮本賞」を設け、日本と中国、東アジアの関係に関わるさまざまな形式の論文を募集している。

2016年度の「第5回宮本賞」では「学部生の部」38本、「大学院生の部」24本の合計62本という過去最多の応募があった。中国大陸の多くの大学からも応募があり、各作品には日中の若者がいま何を考えているか、何に関心を深めているかが明らかに示されている。

本書には、その第5回宮本賞の最優秀賞、優秀賞、特別賞を受賞した15本の論文を一举掲載。

「学部生の部」で最優秀賞を受賞した苑意さん、李文心さん（いずれも東京大学）の「日中外交関係の改善における環境協力の役割—歴史と展望—」、「大学院生の部」で最優秀賞を受賞した楊湘云さん（北京第二外国語学院大学院卒業）の「21世紀中国における日本文学翻訳の特徴～文潔若『春の雪』新旧訳の比較を通して～」などの優秀作を収めている。

宮本賞の審査委員長を務め、本書の監修を担当した宮本雄二氏は「論文のレベルも年々向上著しいものがあります。宮本賞はすっかり軌道に乗り、日中の若者による相互理解を深める上で、大きな役割を発揮し始めています」（まえがき）などと述べている。

本書は、日本日中関係学会が3月17日に開催予定の「表彰式・発表会」に合わせて刊行された。

■ 若者が考える「日中の未来」Vol.3 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』

<http://duan.jp/item/236.html>

監修：宮本雄二（元中国大使）

編者：日本日中関係学会

出版：日本僑報社

判型：A5判 240頁並製

定価：3000円＋税

発行：2017年3月31日

ISBN：978-4-86185-236-7 C0036

2) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 監修者、編者紹介

<http://duan.jp/item/236.html>

【監修者紹介】宮本雄二（みやもと ゆうじ）

1969年外務省入省。3度にわたりアジア局中国課に籍を置くとともに、北京の在中華人民共和国日本国大使館駐在は3回を数える。90年から91年には中国課長を、2006年から10年まで特命全権大使を務める。このほか、85年から87年には軍縮課長、94年にはアトラ

ンタ総領事、01年には軍備管理・科学審議官、02年には駐ミャンマー特命全権大使、04年には沖縄担当大使を歴任。

現在は宮本アジア研究所代表、日中友好会館副会長、日本日中関係学会会長。

著書に『これから、中国とどう付き合うか』（日本経済新聞出版社）、『激変ミャンマーを読み解く』（東京書籍）、『習近平の中国』（新潮新書）。

【編者紹介】日本日中関係学会

21世紀の日中関係を考えるオープンフォーラムで、「誰でも参加できる」「自由に発言できる」「中国の幅広い人々と交流していく」をキャッチフレーズに掲げている。

主な活動としては、(1)研究会・シンポジウムを随時開催、(2)毎年、「宮本賞」学生懸賞論文を募集、(3)学生を中心とした青年交流部会を開催、(4)ビジネス実務者による中国ビジネス事情研究会の開催、(5)ホームページ「中国 NOW」で、中国の政治・経済などの情報を提供、(6)newsletter(年3回)の発行、などがある。会員は約450名。

※ 公式サイト <http://www.mm.jp.or.jp/nichu-kankei/>

3) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 目次 (受賞者一覧)

<http://duan.jp/item/236.html>

まえがき

【最優秀賞】

- ・日中外交関係の改善における環境協力の役割 ―歴史と展望―
苑意 (東京大学教養学部3年)、李文心 (東京大学経済学部3年)
- ・21世紀中国における日本文学翻訳の特徴 ～文潔若『春の雪』新旧訳の比較を通して～
楊湘云 (北京第二外国語学院日本語言語文学研究科2015年7月卒業)

【優秀賞】

- ・日中関係のカギを握るメディア ―CRI 日本語部での経験を交えて―
高橋豪 (早稲田大学法学部3年)
- ・日系企業の中国進出についての文化経営研究 ―ユニクロを例にして―
王嘉龍 (北京第二外国語学院日本語学部2016年7月卒業)
- ・「草の根」の日中関係の新たな構築 ～農業者、農協の交流を通して～
宮寄健太 (早稲田大学商学部1年)
- ・日中関係における競争と協力のメカニズム
～アジア開発銀行 (ADB) とアジアインフラ投資銀行 (AIIB) の相互作用を事例として～

田中マリア（早稲田大学政治学研究科博士課程後期 2016 年 3 月満期退学）

・ 中日におけるパンダ交流の考察

李坤（南京大学外国語学部博士課程前期 2 年）

・ 草の根からの日中平和 ―紫金草平和運動を中心に―

賈玉龍（大阪大学大学院人間科学研究科博士課程後期 1 年）

【特別賞】

・ ハイアールのネット化戦略を読み解く ―日立、アイリスオーヤマとの比較を中心に―
渡邊進太郎（日本大学商学部 3 年＝代表）、岡野正吾（同 4 年）、河合紗莉亜（同 2 年）、
橋本清汰（同 2 年）・山口掌（同 2 年）

・ 日中における東アジア FTA 政策

戴岑仔（上海外国語大学日本文化経済学院 4 年）

・ アリババが生む中国的ビジネスイノベーション ―ビジネス・エコシステムの新展開―

小泉裕梨絵（日本大学商学部 3 年＝代表）、原田朋子（同 4 年）、林智英（同 3 年）、
池田真也（同 3 年）、伊東耕（同 2 年）、仲井真優豪（同 2 年）

・ 爆買の衰退から見る日中関係

岩波直輝（明治大学経営学部 4 年）

・ 大豆貿易の政治的商品への過程 ―日中の協力と競争をめぐって―

エバン・ウェルス（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター
ウィスコンシン大学マディソン校歴史学部博士課程後期 3 年）

・ 歴史認識と中日の未来 ～歴史に学び、歴史に束縛されないように～

勾宇威（北京師範大学歴史学院博士課程前期 1 年）

・ 日中における生活系廃棄物減量化について

～ベストプラクティスに見るゴミを減らすためのソリューション～

村上昂音（東京外国語大学総合国際学研究科博士課程後期 2 年）

【付録】

日中関係学会主催「第 5 回宮本賞（学生懸賞論文）」募集のご案内

これまでの主な応募大学一覧

第 5 回宮本賞：審査委員会・推薦委員会・実行委員会メンバー

第 1 回宮本賞受賞者（2012 年）

第 2 回宮本賞受賞者（2013 年）

第 3 回宮本賞受賞者（2014 年）

第 4 回宮本賞受賞者（2015 年）

4) 『日中外交関係の改善における環境協力の役割』 まえがき

<http://duan.jp/item/236.html>

日本日中関係学会（会長：宮本雄二元中国大使）が2016年に募集した第5回宮本賞（学生懸賞論文）の受賞論文15本を全文掲載し、皆様にお送りします。受賞したいずれの論文にも、若者らしい斬新な切り口と興味深い分析が溢れており、これから日中関係を発展させていくうえで、貴重なヒント、手掛かりを提供してくれるものと確信いたします。

第5回宮本賞では、「学部生の部」で38本、「大学院生の部」で24本、合計62本の応募がありました。応募論文数は第1回（2012年）12本、第2回（2013年）27本、第3回（2014年）49本、第4回（2015年）51本と増えてきましたが、今回はさらに前年を上回りました。中国大陸の多くの大学からも応募があり、論文のレベルも年々向上著しいものがあります。

2016年12月に審査委員が集まり、厳正な審査を行った結果、「学部生の部」の最優秀賞に苑意・李文心さん「日中外交関係の改善における環境協力の役割 ―歴史と展望―」、「大学院生の部」の最優秀賞に楊湘云さん「21世紀中国における日本文学翻訳の特徴～文潔若『春の雪』新旧訳の比較を通して～」をそれぞれ選出しました。このほか「学部生の部」で優秀賞3本、特別賞4本、「大学院生の部」で優秀賞3本、特別賞3本をそれぞれ選びました。

「宮本賞」のテーマは「日本と中国ないし東アジアの関係に関わる内容の論文、レポート」です。また分野は政治・外交、経済・経営・産業、文化・教育・社会、環境、メディアなどと幅広く設定しております。

ただ、単なる学術論文やレポートではなく、論文内容がこれからの日中関係にどのような意味を持つか、提言も含めて必ず書き入れていただいています。今回の受賞論文の中にも、日中関係の改善のために環境協力の面でどのようなことができるか、中国に進出している日系企業が成功するにはどうしたらよいか、生活系廃棄物を減量させるにはどんな対策が必要か、など傾聴に値する具体的な提言がいくつも見られました。この点が「宮本賞」の他に類を見ない、大きな特徴であろうかと思えます。

日中関係は、これから日中両国にとってだけでなく、この地域全体にとってもますます重要になってまいります。とりわけ若い世代の皆さんの果たす役割は大きいものがあります。若い世代の皆さんが、日本と中国ないし東アジアの関係に強い関心を持ち、よりよい関係の構築のために大きな力を発揮していただきたい。日中関係学会などの諸活動にも積極的に参加し、この地域の世論をリードしていただきたいと思います。宮本賞はそのための人材発掘・育成を目的として創設いたしました。

宮本賞はすっかり軌道に乗り、日中の若者による相互理解を深める上で、大きな役割を發揮し始めています。2017 年も第 6 回宮本賞の募集を行います。皆様方のご協力を得て、よりすばらしい「宮本賞」にしていけたらと願っております。

日本日中関係学会会長・「宮本賞」審査委員長
宮本雄二

5) 「若者が考える『日中の未来』」シリーズ・関連本紹介

<http://duan.jp/item/miyamoto.html>

○ 若者が考える「日中の未来」Vol.1 『日中間の多面的な相互理解を求めて』

宮本雄二（元中国大使）監修、日本日中関係学会編、日本僑報社刊

<http://duan.jp/item/186.html>

——2014 年に行った第 3 回宮本賞（学生懸賞論文）で、優秀賞を受賞した 12 本を掲載。若者が考える「日中の未来」第一弾！ 最優秀賞を受賞した間瀬有麻奈さん（愛知県立大学）の論文「日中間の多面的な相互理解を求めて」など力作が揃う。

○ 若者が考える「日中の未来」Vol.2 『日中経済交流の次世代構想』

宮本雄二（元中国大使）監修、日本日中関係学会編、日本僑報社刊

<http://duan.jp/item/223.html>

——2015 年に日本日中関係学会が募集した第 4 回宮本賞（日中学生懸賞論文）で、最優秀賞などを受賞した 12 本の論文を全文掲載。若者が考える「日中の未来」シリーズの第二弾！ 最優秀賞を受賞した日本大学商学部チームの「日中経済交流の次世代構想～華人・華僑の新しい日本展開をめぐる～」など、若者ならではの斬新な視点の秀作が収録される。

○ 『中国の“穴場”めぐりーガイドブックに載っていない観光地』

日本日中関係学会編、日本僑報社刊

【特別収録】関口知宏が語る「異郷有悟」 日本との違いをかき集める旅

—中国鉄道大紀行 3 万 6000 キロで見つけたこと—

<http://duan.jp/item/167.html>

——「本書の特徴は、単に景色がすばらしいとか、観光的な価値があるとかいうだけでなく、紹介を通じていまの中国の文化、社会、経済の背景をも浮き彫りにしようと思っただけのことでしょうか。中には旅行社に頼んでも、簡単には行けないような場所もあります」（元中国大使・日中関係学会会長・宮本雄二氏「まえがき」より）

6) 月刊誌「コロンブス」に書評が掲載—『夫婦の「手作り・日中交流」28年』

<http://duan.jp/item/214.html>

【日本僑報社発】地域に根ざした月刊経済誌「コロンブス」2017年3月号に、日本僑報社刊、大森和夫・大森弘子編著『日本語で日本理解を！夫婦の「手作り・日中交流」28年』の書評が掲載されました。

本書は、民間の立場で28年間にわたり日中交流を深めてきた大森和夫・弘子夫妻の軌跡を、豊富なカラー写真や資料とともに紹介した“日中友好実践の書”。

「コロンブス」では、「本書には中国の学生から届いた“生の声”、そして夫婦から中国の若者へと届けられた日本の生の姿が収められている。(中略)そこには『理解不足による日本嫌いの中国の若者を少しでも減らしたい』という夫婦の熱い思いがある」「民間交流がいかに大切か、それがわかる一冊だ」などと紹介されました。

丁寧な書評をありがとうございました！

※ 書評全文はこちらからご覧いただけます。

<http://jp.duan.jp/whatsnew/2017.3.3.jpg>

※ 『日本語で日本理解を！夫婦の「手作り・日中交流」28年』

大森和夫・大森弘子／編著、日本僑報社刊

<http://duan.jp/item/214.html>

7) 【おくやみ】アジア文化総合研究所所長の鍾清漢先生

<http://duan.exblog.jp/23918904/>

アジア文化総合研究所所長で、元川村学園女子大学教授の鍾清漢先生が3月3日、老衰のため死去されました。88歳でした。

昭和37年(1962年)、台湾人留学生として来日。以来半世紀以上にわたり、学術文化の国際交流に尽力、貢献されました。研究テーマの原点は「教育と人間と社会」で、教育社会学・アジア文化研究の分野で多大な業績を挙げられました。

東京大学博士(教育学)の学位取得後、千葉明德短期大学、文化女子大学、川村学園女

子大学などの教授を歴任。早稲田大学、筑波大学、国士舘大学など多くの大学で教鞭を執る傍ら、日本中国総合研究会、アジア文化総合研究所、国際アジア文化学会、日本国際客家文化協会を創設し、「アジアと日本の懸け橋」として多方面で活躍されました。

ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

8) 中文和訳の通信講座「武吉塾」第18期を4月より開講へ、受講生募集！

<http://fanyi.duan.jp/takeyosijuku.htm>

【日本僑報社発】日本僑報社・日中翻訳学院主催の「武吉塾」通信講座は、2017年4月開講の第18期受講生を募集いたします。ご好評に応じて、今期も全15回とします。

毎週、課題文を受講者にメールで送り、受講者は2週間後に訳文を講師あてメールで提出します。講師は丁寧に添削したものを各受講者あてに郵送するとともに、参考訳文と講評をメールで送付します。これを14回くり返し、最終回はスクーリングを計画しています。受講者には修了証書を授与します。

——「翻訳って、実に楽しいですね」「翻訳は、ほんとうに奥が深いのですね」。これは、私が20年以上にわたり各地で主宰してきた翻訳講座に参加した皆さんの、一致した感想です。中文和訳は、語彙を増やすだけでなく、論理的な中国語と情緒的な日本語の違いを知り、「コッテリ中華」の原文を「お茶漬けさらさら」に訳すうちに、背景にある両国文化の違いも勉強できます。そんな楽しみを、ぜひ皆さんにも味わっていただこうと思います——（武吉次朗先生）。

第18期の訳文提出日は、4月4日、11日、18日、25日、5月2日、16日、23日、30日、6月6日、13日、20日、27日、7月4日、11日。さらに最終回はスクーリングで、以上15回とします。スクーリングに参加できない方には別途特別課題を用意します。

ご参考までに、第1回と第2回の課題文を掲載します。

○第1回の課題文 <http://fanyi.duan.jp/takeyosi1.htm>

○第2回の課題文 <http://fanyi.duan.jp/takeyosi2.htm>

参考書は、武吉次朗著『日中・中日 翻訳必携』『日中・中日 翻訳必携・実戦編』と新刊の『日中・中日 翻訳必携・実戦編2』（いずれも日本僑報社）です。

<http://duan.jp/item/055.html>

<http://duan.jp/item/160.html>

<http://duan.jp/item/211.html>

※お申し込み、お問い合わせなど、詳しくは下記をご参照ください。

【主催】

日本僑報社・日中翻訳学院 <http://fanyi.duan.jp/>

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-17-15 電話：03-5956-2808

※ 詳細：中文和訳の「武吉塾」通信講座 第18期のご案内

<http://fanyi.duan.jp/takeyosijuku.htm>

★編集・発行：日本僑報社 <http://jp.duan.jp/>

★登録・解除：<http://www.mag2.com/m/0000005117.html>

★段躍中微博：<http://weibo.com/duanjp>
